

West Breeze

Hiroshima City University's founding principle is to become an international university which contributes to world peace and to the prosperity of the community through education and research in science and art.



No. 098 Spring 2026 広島市立大学 広報誌



本学における博士学位取得者

2025年度 春季修了 ※敬称略

情報科学研究科	博士(情報工学)	立石 李希人
芸術学研究科	博士(芸術)	FENG FAN
	博士(芸術)	GOLDSCHMIDT REBECCA MARIA
	博士(芸術)	REN JINLAI
	博士(芸術)	濱地 孝史
	博士(芸術)	平浜 あかり
平和学研究科	博士(平和学)	LEE EON YONG

2026年度学年暦 前期(4月1日～9月30日)

4月1日(水) — 2日(木)	7日(火)	春季休業 春季入学式
2日(木) — 8日(水)	7日(火)	オリエンテーション・定期健康診断
8日(水) — 14日(火)	15日(水)	前期履修登録期間 前期授業開始
14日(火) — 22日(水)	24日(金)	前期履修確認期間 水曜日の授業実施
22日(水) — 30日(木)		第1ターム試験期間 開学記念日
30日(木) — 7月22日(水)		月曜日の授業実施
7月22日(水) — 30日(木)	8月12日(水)	前期定期試験
30日(木) — 8月6日(木)		平和記念日(全学休業日)
8月6日(木) — 13日(木)	9月30日(水)	夏季休業 全学休業日
13日(木) — 17日(月)		
17日(月) — 9月24日(木)	10月7日(水)	後期履修登録期間 秋季卒業式
24日(木) — 25日(金)		

役員等選任(変更分)

理事長補佐・副理事(内部質保証担当)/市原英行、国際センター長/大場輝枝、国際学部長・高橋広雅、芸術学部長/笠原浩、広島平和研究所長・平和学研究所長/石田淳、国際学部副学部長/坂谷大世、国際学部副学部長/大庭千恵子、芸術学部副学部長/田中圭介、広島平和研究所副学部長・平和学研究所副学部長/沖村理史

教員の人事異動

退職・退任

国際学部教授/渡辺智恵、情報科学研究科教授/石田賢治、芸術学部教授/納島正弘、芸術学部教授/吉田幸弘、広島平和研究所特任教授/大芝赤、国際センター特任教授/津村浩、国際学部准教授/斎藤祥平、情報科学研究科准教授/中野靖久、情報科学研究科准教授/福島勝、情報科学研究科准教授/宮原哲浩、情報科学研究科講師/ムハンマド・サルマン・アル・ファリシ、芸術学部講師/山浦めぐみ、大学評価・IRセンター講師/齊藤真、芸術学部助教/大庭孝文

新任

広島平和研究所教授/石田淳、広島平和研究所教授/ジャック・エドソン・ハイマンズ、国際学部准教授/天野修一、情報科学研究科准教授/小林諭、広島平和研究所准教授/山根達郎、情報科学研究科講師/岩口克史、芸術学部講師/古賀くらら、芸術学部講師/鹿田義彦、情報科学研究科助教/林藍子、情報科学研究科助教/渡邊弘大、芸術学部助教/平浜あかり、芸術学部助教/前田由芽、芸術学部助教/森智秋

昇任

国際学部教授/坂谷大世、国際学部教授/重田美咲、国際学部教授/田浪亜央江、情報科学研究科教授/岩田一貴、情報科学研究科教授/福田浩士、国際学部准教授/原雅樹、国際学部准教授/山崎雅夫、情報科学研究科准教授/福木雅人、情報科学研究科准教授/小林真

ICHIDAI NEWS

学生表彰



最新の



いちだいニュース

ご寄付のお願い

広島市立大学が、さらに社会や地域に貢献できるよう、皆さまの温かいご支援をお願い申し上げます。

ご寄付について



West Breezeについての
ご意見やご感想はこちらへ

広島市立大学 広報委員会
Mail kikaku@m.hiroshima-cu.ac.jp
Tel 082(830)1666 Fax 082(830)1656



West Breezeの最新号・バックナンバーはウェブサイトからご覧いただけます。

表紙作品

2025年度 芸術学部デザイン工芸学科(金属造形分野)卒業
板垣 穂乃 [eternally] / (金木犀)H21xW196xD204 mm
(桜)H51xW219xD183mm / (椿)H52xW170xD193mm / Silver950、キュービックルコニア、オレンジュキュービック、ピンクキュービック、イエローキュービック、オレンジュサファイア、イエローサファイア、シトリン、合成ルビー、ピンクルビー、モルガナイト、イエローパール
2025年度 卒業制作優秀賞 / 芸術資料館賞 上げ作品



広島市立大学広報誌のタイトル「West Breeze」は、広島市立大学のある西風新都にちなんで命名されました。
[West Breeze 98号] 編集・発行/広島市立大学 広報委員会 発行日/2026年4月1日



〒731-3194 広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号
Tel 082(830)1500(代) Fax 082(830)1656
https://www.hiroshima-cu.ac.jp/



ご入学の皆さんへ

出会いが未来を開く



国際学部長
国際科学研究科長
たかはし ひろまさ
高橋 広雅

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。国際学部での学びは、教室の中だけで完結するものではありません。異なる価値観や背景をもつ仲間との対話や協働、時には意見の衝突を通じて、自らの視野を広げていく営みでもあります。周囲の人たちと切磋琢磨し、お互いを高め合うことは「ピア効果」と呼ばれ、学術的にもその有効性が検証されています。大学は、まさにそのような仲間と出会う絶好の場です。本学部には、多様性を尊重し挑戦を楽しむ環境があります。良き仲間に出会い、学び合い、支え合いながら、自身の可能性と世界への扉を切り開いてください。皆さんの挑戦に、大きな期待を寄せています。

学長、学部長、研究科長から 新入生に贈るメッセージ



理事長・学長
まえだ かおり
前田 香織

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんの入学を心から歓迎します。本学は1994年の開学以来、「科学と芸術を軸に、世界平和と地域に貢献する国際的な大学」という理念のもと、広島から世界へ挑戦を続けてきました。今年で開学33年目を迎え、これまでに巣立った卒業生は国内外のさまざまな分野で活躍し、地域社会や国際社会に新しい価値を生み出しています。卒業生からは、「他学部の学生と協働する機会が多く、学部を越えた友達ができただ」という声をよく耳にします。これは、本学の適度な規模に加え、国際学部・情報科学部・芸術学部、そして平和学研究所というユニークな構成があるからこそ得られる経験だと考えています。皆さんも、それぞれの学部で専門性を深めながら、学部の枠を越えて互いに学び合い、さまざまな課題解決に挑戦していきましょう。

AIを使いこなし、未来を定義する知性となれ



情報科学部長
情報科学研究科長
いしみつ じゅんぺい
石光 俊介

広島市立大学情報科学部は、AIが社会を席巻するはるか30年前、平和を希求し未来を照らす存在として産声を上げました。現在、生成AIは単なる「道具」を超え、私たちの思考や創造性すら代替し始めています。変化の荒波が激しさを増す今、灯台が嵐の中でこそ真価を発揮するように、本学部が30年かけて築き上げた「情報科学の真髄」という光が、かつてないほど重要になっています。AIに正解を委ねるのではなく、AIを使いこなし、問いを立てる「知性の主体」として、あなたは何を成すのか。世界が加速し、自分を見失いそうな時代だからこそ、本学で揺るぎない基礎を打ち立ててください。その基礎こそが、不確実な未来を切り開く最強の武器となります。共に未来を建設しましょう。大いに期待しています。

表現は、世界に触れることから始まる



芸術学部長
芸術学研究科長
かさはら ひろし
笠原 浩

皆さんが今、この場に居るのは、単に「才能があったから」だけではないはずです。これまで何を見て、何に心を動かされ、あるいは何を選ばなかったのか。そうした無数の選択を積み重ねてきた結果が、今の皆さんの姿なのだと思います。表現するということは、自分一人で完結するものではありません。作品は誰かに届き、時に誤解されたり、受け入れられなかったりすることもあるでしょう。それでも、作品は誰かの心に触れ、その人の世界の見え方をほんの少しだけ変える力を持っています。その影響は微かかもしれませんが、ゼロではありません。表現を通じて世界に働きかける側に立つ。そのことを心のどこかに留めながら、本学での研究や制作の日々を、大切に積み重ねていってください。

三つの力



平和学研究科長
いしだ あつし
石田 淳

皆さんには在学中に三つの力を身に付けて、卒業後には自分らしい道を迷うことなく歩み出していってほしいと思います。その三つの力とは、観察力、想像力、そして表現力です。まずは観察力。いま、目の前にあるものを注意深く見る、あるいは読んでください。何に気付くかは観察者によって千差万別でしょう。次に想像力。認識は千差万別であればこそ、他者の認識を想像してください。大切なものは、観察、感知、経験できるとは限りません。最後に表現力。頭の中の思考を分かりやすく印象深く言語化できなければ、人間は意思疎通できません。そして意思疎通できなければ、自分とは考えや思いを異にする他者と平和に共存できるものではありません。

研究紹介 広島市立大学の“いま”を知る、4つの研究トピック

国際、情報、芸術、平和——異なる分野で活躍する研究者たち。今知ってほしい研究を紹介します。



ヌルハイザル・アザム・アリフ 准教授
国際学部 国際学科

地域食品企業における国際化と組織変容の研究

私の研究は、日本における地域の食品企業が、どのように国際化を進めているのかを明らかにするものです。特に、広島に根ざした企業が、海外市場へ挑戦する中で、現地の文化や価値観に向き合いながら事業を広げていく過程に注目しています。

研究の軸となるのは、「走りながら変容する」という視点です。最初から完璧な計画を立てるのではなく、今ある技術や人とのつながりを生かし、試し、学びながら柔軟に形を変えていく。その積み重ねが、結果として持続的な国際化につながっていきます。ハラールやヴィーガンといった食の多様性への対応も、こうした試行錯誤の中で育まれてきました。

多様性を尊重し、対話を重ねてきた広島の経験を背景に、地域から世界へと視野を広げる実践的な学びを学生と共に探究しています。



左/クアランプールのハラールショー
右/マレーシアの日本食品売場

多分野協働がもたらす表現の越境と深化

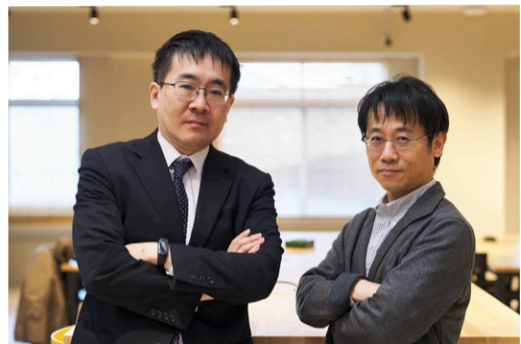
毎年、常に新しい表現に挑戦することを心掛けています。最近の活動としては他業種のプロフェッショナルとの協働制作が挙げられます。昨年ファッションブランド「ANTEPRIMA」とタッグを組み、ワイヤーバッグを始めとしたさまざまなアイテムを協働で生み出しました。服は柔らかな最初の建築であると定義し、ミラノのファッションショーで上下が反転したシャツをまとい、ランウェイを歩きました。また、招待された六甲ミーツアートでは建築家・安藤忠雄の「風の教会」という特殊な空間を読み解き、神戸の震災から30年という節目を顕在化させるべく、崩壊した無数の建築模型が十字架に吸い込まれるような展示を行いました。今年6月にフィンランド・オウル市で開催する「欧州文化首都2026」では、3年間通って実現させた恒久野外彫刻が披露されます。オウル市はタールと樽で財を成した都市で、現地の木工職人と共に制作した3メートルを超す特製の樽の内部に、雪の結晶が宇宙の星々のように舞う作品を制作しました。世界の第一線で活躍できるよう、さまざまなことに創造的な視点を持ち続けたいと考えています。



いわさき たかひろ
岩崎 貴宏 准教授
芸術学部 美術学科



© ANTEPRIMA, CO. LTD 2025



研究代表者
たむら けいいち / めら かずや
田村 慶一 教授 / 目良 和也 准教授
情報科学部 知能工学科

AI技術を活用した対話型データベース検索システム

広島市と国は、被爆体験記、証言ビデオ、市民が描いた原爆の絵や当時の写真など、被爆の記憶を伝える貴重な資料を数多く所有しています。そしてこれらを単なる記録に留めず、いかに次世代へ継承していくかが大きな課題となっています。

現在、広島市と共同で、AI（人工知能）技術を活用して形式の異なる被爆関連資料をまとめて検索できるシステムの開発に取り組んでいます。このシステムの特徴は、音声入出力機能を持つAIキャラクターとの対話を通じて、資料を直感的に検索できる点にあります。特に、LLM（大規模言語モデル）とRAG（検索拡張生成）を用いることで、あいまいな問い掛けからでも意図をくみ取り、より関連性の高い資料を見つけることができます。

被爆から80年が経過し、体験を被爆者から直接聴き語り継ぐことが難しくなる時代が近づいています。だからこそ、情報科学の技術は、過去の記憶を未来へとつなぐ「架け橋」になれるはず。大学で培った技術を社会の平和や幸福のために役立てたい。その思いを大切にこれからも研究開発に取り組んでいきます。



プロジェクトに参加している学生とミーティングを行う。
坂清直得さん(情報科学部 知能工学科 4年)と田中颯さん(情報科学研究科 知能工学専攻 1年)
※学年は取材当時

CG-CA Uka ©2023-2024 by Nagoya Institute of Technology, Moonshot R&D Goal 1 Avatar Symbiotic Society.

核兵器をめぐる「ルール」の力学を把握する

私は、核兵器をめぐる国際社会にどのような「ルール」や暗黙の了解が形成され、それが国際政治の中でどのように働いてきたのかを研究しています。公文書などの歴史的資料に加え、国会議事録や新聞、さらには近年のSNS上の言説も対象に、言葉の使われ方を統計的に分析する「テキストマイニング（計量テキスト分析）」という手法を用いて、人々が核兵器をどのように語ってきたのかを可視化しています。質的な読み込みとデータ分析を往復する中で、漠然と眺めているだけでは見えてこなかった構図が浮かび上がることがあり、それは研究者として大きなやりがいを感じる瞬間の一つです。核兵器をなくしてほしいというのは被爆地・広島は願っていますが、その道筋が見えにくい時代だからこそ、極端な議論に流されず、核をめぐる議論の「枠組み」を客観的なデータに裏付けられた形で理解する作業が欠かせないと考えています。学生の皆さんには、「常識」とされているものをいったん問い直し、自分自身の問題として考える姿勢を身に付けてほしいです。



うめはら としや
梅原 季哉 教授
平和学研究所



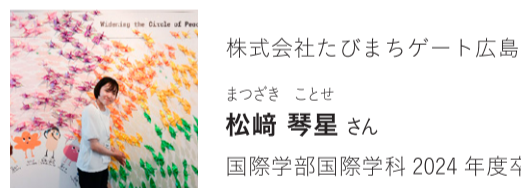
昨年3月、国連本部で開かれた核兵器禁止条約の締約国会議

活躍する市大人

在学生、卒業生を問わず、国内外のさまざまな分野で活躍する「市大人」を紹介します。

本学の国際学部を卒業し、現在、株式会社びまちゲート広島に勤務する松崎琴星さんにお話を伺いました。

平和活動がつかない私の将来



株式会社びまちゲート広島
まつざき こずみ
松崎 琴星さん
国際学部国際学科 2024年度卒業

— 現在のお仕事について教えてください。

県外の観光客やインバウンド客を広島県に誘致し、広島県の観光資源を使った旅行商品や体験プログラム「PEACE PARK TOUR VR」*を企画・造成する部署に所属しています。

— 大学時代にとどのようなことを学びましたか。

国際学部で国際政治・平和プログラムを専攻し、国際関係史を中心に学びました。ゼミの専攻では国際関係史(中国)を取り、東南アジアの華僑華人についての卒業論文を執筆しました。きっかけは、たまたま卒業ゼミとなる先生の講義で題材を知り、興味を持ったからです。大学に入学した時は英語に興味があったのですが、気が付くと自分自身思いもよらなかった分野を勉強していました。

— 学生生活で印象に残っていることは何ですか。

学生同士で学生生活の支援を行う「いちピア」、平和活動サークル「S2」や関連プロジェクトなどにチャレンジしていました。特に「いちピア」は団体としての歴史が浅く、新しいことを実現できるような活動環境で、イベントを企画したり、ラジオを収録したりと何でもありだったのが楽しく、強く印象に残っています。自分の行動力に気付いたのも「いちピア」での活動がきっかけだったと思っています。

— 大学での学びや経験が今につながっていると感じることはありますか。

大学では「S2」に3年次まで所属していました。小学校で平和教育を受けて以降、広島での平和について学ぶことから離れていましたが、「S2」に所属したことがきっかけで平和活動に興味を持ちました。他にも、大学の支援を受けて学生が社会貢献活動に取り組む「市大生チャレンジ事業」の「ヒロシマ・ヤング・ピース・ビルダーズ」という学生団体に大学3年次から加入し、平和活動に取り組む中で、現在の仕事をしたいという思いにつながったと感じています。



*PEACE PARK TOUR VRのゴグル

※「PEACE PARK TOUR VR」広島市平和記念公園レストハウス発着とした体験型ツアー。ガイドと共に園内を巡り、被爆者の証言や過去の写真等を基にした再現VRで、被爆前から現在に至るまでの広島の様子を体験できる。



広島市平和記念公園レストハウスで仕事をされる松崎さん



「ノーマア・ヒバクシャ継承センター」広島のフィールドワークに参加

— 現在のお仕事のやりがいを教えてください。

「PEACE PARK TOUR VR」が県外の学校の修学旅行で採用され、現地ツアーのサポートを担当した際、学生や先生方から「広島で平和を考える良い機会となった」「自分が平和をつくっていくために何ができるのか考えていきたい」といった前向きなお言葉をいただけたときです。広島で体験することに意味があると思ってもらえたり、平和に少しでも興味を向けてくれた学生の姿を見るとやりがいを感じます。最近では、「S2」の現部員たちと「PEACE PARK TOUR VR」を通じて交流関係を持つことができました。社会人になっても、自分が所属していたサークルの活動に関わる機会があるとは思っていませんでした。

— 今後の活動や、目標があれば教えてください。

仕事では県外、海外の方にも広島をさらに知っていただけるようなツアーやコンテンツを造成するため、一年目よりも現地に足を運んでその土地の良さを知り、さまざまな人と出会い、つながりを持ちたいと思っています。また、昨年から所属している「ノーマア・ヒバクシャ継承センター」の活動でも、毎月のディスカッションやフィールドワークに加えて、被

爆者の方が書かれた短歌を朗読するなど、平和を発信する機会にもチャレンジしていきたいです。

— 最後に後輩たちへメッセージをお願いします。

私は自分の興味を仕事に生かしたいと思い、今の会社に就職しました。関心がなかった業務も多くありますが、そのような仕事を通してこそ、自分自身が成長できると前向きに考えて取り組むようにしています。大学生活でも、初めてのことにプラスを考えて挑戦する経験は、社会人になっても必ず生かせると思います。また、就活に取り組む学生の皆さんには、焦らず自分のペースで取り組んでほしいです。もちろん、就活でのさまざまな企業との出会いも大事な経験にはなりますが、私のように学業や課外活動が就職につながることもあります。自分の好きなことに没頭したり、何かをとことん突き詰めてみたり、そんな時間があるのは大学生の今だからこそです。在学中に、さまざまなことにチャレンジしてみて、将来したいことを考えるのはその後も全く遅くないと思います。周りの友達や先輩、大学の先生方も頼りつつ、たくさん悩んで迷いながらも、充実した大学生活を送れるよう応援しています。

いちレポ 初めて図書館を利用する新入生に見てほしいところはありませんか？

図書館 まずはメインフロアの3階入口付近の企画展示をチェックしてみてください。4月には新生活にぴったりな一人暮らしに役立つ料理本や広島に関する本など、タイムリーなテーマに合わせた本が並びます。桜の季節は「ライニング」コミックの「ちこも」からの景色を楽しむのもお薦めです。

いちレポ 図書館は1階から3階まであります。3階はそれぞれ違った特徴がありますか？

図書館 1階は「いちレポ」のライオンコーナーはベテランや先生のお薦めのポスターアップされた本など、気軽に読みやすい本が並びます。2階は専門的な本が並び、空想小説に使われることが多いです。3階は読みやすい教養系の本も多いため、館内には一人用の机もあることで、自分の落ち着く場所を見つけてみてください。

いちレポ 中には借り方が分からない人がいるかもしれません。

図書館 気軽に司書に聞いてみてください。とにかく一度来て、館内を歩いてみてください。

いちレポ 中では借り方が分からない人がいるかもしれません。

図書館 学修や研究に加えて、新聞を読みながら多読したいという方も増えています。複数の新聞を読み比べられるのも大きな理由だと思います。

いちレポ 調べ物以外ではどういった方が来られますか？

図書館 学修や研究に加えて、新聞を読みながら多読したいという方も増えています。複数の新聞を読み比べられるのも大きな理由だと思います。

まとめ 図書館は館内の利用だけでなく、データベースにアクセスすれば、学外から新聞や雑誌などの電子資料も閲覧できるなど、多様な使い方ができる場所だということが分かりました。こうした図書館の魅力に注目しながら、積極的に活用してみてください。

付属図書館を使いこなそう！
「お薦め」と「便利ワザ」

皆さんは、普段図書館でどのように過ごしていますか？広島市立大学附属図書館には、使いやすく楽しい工夫がたくさん詰まっています。今回は図書館スタッフさんに図書館のお薦めの使い方を取材しました。

新入生にお薦め

いちレポ 初めて図書館を利用する新入生に見てほしいところはありませんか？

図書館 まずはメインフロアの3階入口付近の企画展示をチェックしてみてください。4月には新生活にぴったりな一人暮らしに役立つ料理本や広島に関する本など、タイムリーなテーマに合わせた本が並びます。桜の季節は「ライニング」コミックの「ちこも」からの景色を楽しむのもお薦めです。

いちレポ 図書館は1階から3階まであります。3階はそれぞれ違った特徴がありますか？

図書館 1階は「いちレポ」のライオンコーナーはベテランや先生のお薦めのポスターアップされた本など、気軽に読みやすい本が並びます。2階は専門的な本が並び、空想小説に使われることが多いです。3階は読みやすい教養系の本も多いため、館内には一人用の机もあることで、自分の落ち着く場所を見つけてみてください。

いちレポ 調べ物以外ではどういった方が来られますか？

図書館 学修や研究に加えて、新聞を読みながら多読したいという方も増えています。複数の新聞を読み比べられるのも大きな理由だと思います。

まとめ 図書館は館内の利用だけでなく、データベースにアクセスすれば、学外から新聞や雑誌などの電子資料も閲覧できるなど、多様な使い方ができる場所だということが分かりました。こうした図書館の魅力に注目しながら、積極的に活用してみてください。

いちレポ 雑誌は旬の話題を押さえたときにお薦めです。新聞・雑誌・図書で情報の細かさや変わっていくので、知りたい内容に応じた、新しい内容に

この記事は、学生の目標から本学の魅力を発信することを目的に活動している「学生広報クルー「いちレポ」」の広報誌が作成しました

YouTube Instagram

編集統括・デザイン：芸術学部4年 高橋 南帆
ライティング：国際学部2年 尾立 伶美・芸術学部2年 堀 裕奈
写真：芸術学部2年 武川 実由
企画：いちレポ 広報誌班